

| | |
|---------|------------------------------------|
| 氏名 | 田 尻 展 久 |
| 授与した学位 | 博 士 |
| 専攻分野の名称 | 医 学 |
| 学位授与番号 | 博甲第 3553 号 |
| 学位授与の日付 | 平成20年3月25日 |
| 学位授与の要件 | 医歯学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当) |

| | |
|--------|---|
| 学位論文題目 | Measurement of Pleural Temperature during Radiofrequency Ablation of Lung Tumors to Investigate the Relationship to Occurrence of Pneumothorax or Pleural Effusion (気胸、胸水の発生との関連性を検討するための肺腫瘍に対するラジオ波焼灼術中の胸膜温度測定) |
|--------|---|

| | |
|--------|----------------------------|
| 論文審査委員 | 教授 谷本 光音 教授 森田 潔 准教授 土井原博義 |
|--------|----------------------------|

学位論文内容の要旨

肺ラジオ波焼灼術において、焼灼中の胸膜温度を測定した。胸膜に関連した合併症である、気胸、胸水の出現頻度と胸膜温度との関連性を検討することを目的とした。

22症例における、34腫瘍に対する25 procedureを対象とした。胸膜温度は電極針に最も近接した胸膜のすぐ外側で、ファイバー型の温度センサーを用いて、焼灼中継続して測定、記録した。胸膜最高温度40℃を閾値として2群に分類し、気胸、胸水の出現頻度について比較した。また、胸膜温度に関連する因子の抽出も行った。

胸水は56%、気胸は25%にみられた。気胸により、温度計測に影響が疑われた5例は除外した。胸膜温度の高い群は有意に胸水発生率が高かった。気胸発生率については2群間で有意差はなかった。胸膜温度に影響する因子の検討では、胸膜と電極針との距離、胸膜と電極針の間に含まれる肺実質の距離の比較で2群間に有意差が認められた。

胸水の発生について胸膜温度の関連性が示唆された。気胸出現への影響は認められなかった。

論文審査結果の要旨

本研究では肺ラジオ波焼灼術において、焼灼中の胸膜温度と術後の胸水出現頻度が相関することを見出した。さらに胸膜と電極針との距離、胸膜と電極針の間に含まれる肺実質の距離が胸膜温度に有意に影響を与えていることを明らかにしている。

肺腫瘍に対するRFAの治療範囲の設定とその副作用出現を推察する重要な臨床指標を見出した研究成果として価値ある業績と認めます。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。